

かるがも



発行所 千葉県こども病院
〒266-0007 千葉市緑区辺田町 579-1
TEL 043-292-2111
FAX 043-292-3815
<http://www.hosp.pref.chiba.jp/kodomo>



平成15年 年頭ご挨拶

千葉県こども病院

院長 鳥羽 剛

皆様、明けましておめでとうございます。心身ともに健やかに新春をお迎えでしょうか？

私ども千葉県こども病院も、今年は誕生後15年目を運営しております。

国の医療費抑制策、それと関連する小児医療とくに病院小児科の縮小、千葉県の財政状況の悪化など問題山積の小児医療の現場にあって、これまで以上の心構えが必要ですが、本年も心新たに、また知恵を出し合って千葉県のこども達の健康増進のため一層の努力を重ねるつもりでおります。

これまで同様、どうぞよろしくご理解・ご指導をお願い致します。

さて、今年のホームページのご挨拶は、江東孝夫医療局長（副院長）より所感を述べさせて頂くことにします。

ご挨拶

医療局長 江東孝夫

明けましておめでとうございます。

新年を迎えるにあたり一言ご挨拶申し上げます。

当院は開院してはや15年目をむかえ、県内の小児医療の中核として、一般の医療機関では対応の困難な、特殊または専門的医療を昼夜を分かたず行い、さらに、県東部の小児医療の2次救急の補完、3次救急医療を担当する小児医療総合施設で、これまで順調な実績が得られていると思っております。

昨年1月には「財団法人日本医療機能評価機構」による病院機能評価を受審し、認定書を授与されました。全国のこども病院（総合病院型）では初めての認定ですが、これからも患者様の権利と安全を確保した質の高い医療サービスと正しい情報の提供を目指していきたく思います。ちなみに当院の17の診療科が専門医研修・教育施設として各学会から認定されています。

また、平成12年に付設された慢性疾患児の家族宿泊施設「かるがもはうす」も大変好評で、日々運営に協力して下さるボランティアの方々にも深く感謝いたしたいと思います。

昨年度、当院を受診されたお子さんは外来は85,157人で紹介率は91.4%、入院は64,108人で病床利用率は92%、平均在院日数は17.8日です。

その内、公費負担適用となる難治性の小児慢性特定疾患および特定疾患・先天性血液凝固因子障害のお子さんは2,631人おります。入院の年齢構成では、生後1ヶ月以内の新生児が6.5%、1歳未満の乳幼児が14.3%、6歳までの幼児が43.2%で、2/3が自分で苦痛・意志を表現できないお子さんや種々の合併症を抱える方ではありますが、職員一同、県内の小児医療の最後の砦と位置付けて頑張っております。

また、救急の取扱患者数は、2,203人（対前年比598人増）、そのうち即日の入院が788人（35.8%）です。手術件数は、1,777件で9科の外科系診療科に加え麻酔科、病理科で頑張っていますがまだまだ待機患者が多いのが現状です。

一昨年12月皇太子ご夫妻の間に敬宮愛子様をご誕生になり、1歳の時点で体重9,320gと生まれた時の3倍以上に成長され、最近ではにこやかに手を振られる微笑ましいご様子が放映されています。こどもはその家庭の宝であることは勿論ですが、次代を担う国の宝、地球の宝であります。

しかし、次代を担っていくこども達をどう育てて行くのか、平和が当たり前の現在の日本でも、世の中が多様化し、少子化、育児不安、虐待などこども達にとって本当に良い生活環境なのか各方面から考えていかなければいけない多くの問題があります。

一方、昼夜にわたって小児を扱う医師の待遇・勤務状況は尋常ではなく、「過労死」の小児科医師も報道されている現状では看護師等を含めた医療従事者の健康管理・作業管理・作業環境管理の改善も緊急の課題であります。

その上に、周産期医療体制の整備、キャリアオーバー（慢性疾患をもったまま成人に達した）の患者様の扱い、また平成16年4月より始まる卒後医師研修等、小児医療を取り巻く問題が山積んでいます。

少子高齢化が進む昨今、こども病院の果す責任は大きいものがあります。

本年もまた先進高度医療施設としての機能を保持しつつ、未来ある子供達のためになお一層の努力を致す所存ですので、宜しくご指導・ご鞭撻をお願い致します。



千葉県こども病院の基本理念

私達は、県立の小児医療施設職員としての自覚を持ち「児童の権利に関する条約」の基本理念のもと、すべてのこどもの基本的人権を擁護し、すべてのこどもが私達に実現可能な最高水準の医療と保健サービスを受けられるように日々努力し、未来あるこどもたちの心身の健全な育成をめざします。

